

## ホシガレイ種苗の放流について

ホシガレイはカレイ科マツカワ属に属し、茨城県を含む北海道から九州にかけての日本沿岸に分布する、大型の沿岸性カレイ類の一種です。本種は味が良く高級魚として知られ、高値で取り引きされる重要な漁獲対象種となっています。

茨城県では、水産資源の維持・増大を図るため、種苗(稚魚・稚貝)を生産し、海に放流して育てる「栽培漁業」を行っています。ホシガレイは、「第8次茨城県栽培漁業基本計画(R4~8)」より新たに対象種として選定され、令和5年度から種苗放流を開始しました。

### ホシガレイの種苗生産と放流

ホシガレイの種苗は鹿嶋市の茨城県栽培漁業センターで生産しています(図1)。今年は1月から2月にかけて孵化した仔魚を育成し、5月下旬に全長32.0~103.5 mm(平均75.9 mm)の種苗約3万尾が生産できました。生産された種苗は、令和7年5月27日にひたちなか市磯崎町地先にて、同6月5日に鹿嶋市平井地先にて、それぞれ放流を行いました。



図1 ホシガレイ種苗

### 求む！ 標識ホシガレイ情報！

県では放流したホシガレイ種苗の追跡のため、種苗の体表に「パンチング」と呼ばれる手法で標識処理を行っています。パンチングとは、魚体の表面を小さくえぐり(図2)、その部分が再生すると通常よりも小さな鱗(小型再生鱗)に覆われ、通常の体表面とは異なる見た目(図3)になることを利用した標識方法です。

ホシガレイは成長が早く、令和5年度に放流した種苗がすでに漁獲加入している可能性があります。ホシガレイが漁獲された際、図3のような小型再生鱗でできた模様を見つけたら、茨城県水産試験場定着性資源部(029-262-4157)までご一報いただくと大変ありがたく思います(パンチングの位置は放流年によって場所を変えているため、可能なら魚体全体の写真も提供いただくと大変助かります)。

今後ともホシガレイ放流および追跡調査にご理解、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

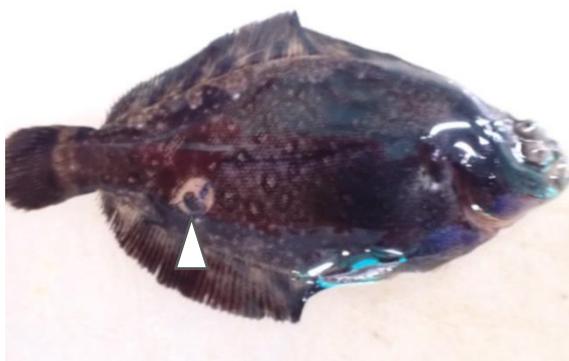


図2 パンチング直後のホシガレイ種苗  
(三角形がパンチングによってできた傷)

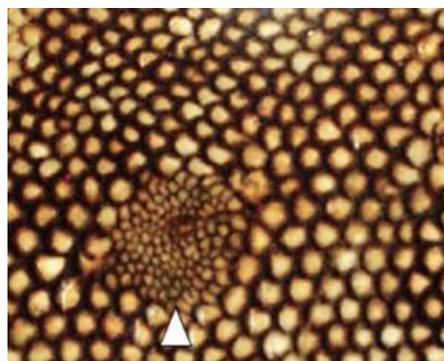


図3 パンチングから2年たった標識跡  
(after 清水ほか, 2013※)

※ 清水大輔・藤浪祐一郎・青野英明(2013) ホシガレイの小型再生鱗を指標とするパンチング標識の有効性. 日本水産学会誌, 79: 394-399.

(定着性資源部 外山太一郎)

【次回予告】R7.7.11 発行の水産の窓は、「海洋観測結果」を予定しています。